



祐介の目

No.176

大田祐介 (福山市議会議員)

福山道路の事業化

長年の懸案であった福山道路がさる4月7日に事業化された。福山市の政財界を結集した期成同盟会が国・県に陳情した成果である。国道2号線の渋滞は確かに酷い、しかしこれから事業化して完成は一体何時になるのか。現在工事中の赤坂IC〜長和IC間の3・3kmは事業化から25年が経過し、ようやく暫定2車線での共用開始が見えてきた。事業費は当初の356億円が751億円にまで膨れた。

今回事業化された笠岡西IC〜長和ICの13・2kmは、川口〜多治米という住宅街を貫通するルート設定となっている。事業費も当初km当たり約100億円の見込みであったが、今回示された事業費は3030億円、km約230億円だ。費用対効果(B/C)は1とされるが、完成予定時期は未定となっている。おそらく30年かかるだろう。住宅密集地の用地買収により何百軒

山道路が開通しなくても代替道路の整備でカバーできないか?というスタンスでいた。しかし、事業化された以上、頭を切り替えて早期完成に尽力するしかない。その方策の一つとして、競馬場跡地「みらい創造ゾーン」を補償用地として活用する案だ。福山道路に近く、周辺にはJAの「ふくふく市」、保育所、病院など住環境は良い。市営住宅などを整備して立ち退き者が優先的に入居できるようにすれば用地買収も比較的スムーズに進むのではないか。

みらい創造ゾーン周辺は福山市の副都心として整備され、駅から自動運転バスにより結ばれる予定だ。福山道路が開通すると駅前道りと交差する場所に千代田ICが設けられる。みらい創造ゾーンは企業立地にもスポーツスタジアムにも適地となるだろう。しかし、それは福山道路が開通したらの話であり、早期開通のためには沿線住民の理解と協力が不可欠である。

もの立ち退きが発生し、何千人という市民が影響を受ける。用地買収が難航すれば40年かかるかもしれない。

私は、事業化前はずっとルート変更が